

R6 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価		
作成日		令和7年3月10日
法人名	園名	
広島大谷学園	大谷むつみ認定こども園	
まとめ		全体平均 4.05
第2章第2節 乳児期の園児の保育	上半期は園児の動きも小さかったためゆったりと過ごすことが出来た。下半期は新入園児が増え、月齢差ができた。話し合いをしながら環境をつくることができていた。わらべうた・おもつ外での排泄を積極的に取り組んでいたことで、身近な人と気持ちが通じ合う体験ができており、社会的・精神的な発達も見られていた。	
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	クラスによって評価の違いがあったが、探索活動が盛んな時期であるが、危険のない限り、見守ろうとする大人の関りが見られていたため、自信をもって過ごす子どもたちの姿が見られていた。わらべうた・おもつはずしなど研修後、実践してコミュニケーションが豊かになった。	
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	表現活動に積極的に取り組む姿が見られた。自由な発想で考えたり、友達がやっているのを見てやる気になる環境も良かった。言葉の領域については低い評価ではないが、新しい時代に向けて言葉でのコミュニケーションを育てることを大切にしていこう計画に反映していく。大人のかかわり方を園全体で話し合い、大人が見本を見せるという基本を乳児期から積み重ねていきたい。	
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	支援の必要な子の対応については、園全体で情報を共有しながら関わる事が出来ていた。	
第3章 健康及び安全	上半期の反省を生かしてヒヤリハットの確認などに取り組むことが出来た。次年度へ向けて情報の共有を目的とし、各マニュアルの読み合わせと更新をしていく。	
第4章 子育ての支援	地域の子育て家庭には十分な活動と広報ができた。参加希望があっても定員がいっぱいで断ることもあったので、次年度は試食の機会を限定し、参加人数を増や競るよう工夫をする。	
第5章 職員の資質向上	わらべうたやおもつはずしについて全員で受講できたのはやりかたや考え方を統一することが出来たのでよかった。新年度は学んだことをアウトプットできるよう、新年度は計画の段階で話し合っていきたい。	
総合	保育教諭・職員は、新園舎になり、子どもたちが安心して過ごすことが出来るよう、一人ひとりの子どもたちと関係をつくっていた。また、危険なことがないよう、衛生環境についても気づきを報告する体制ができていた。ICTの導入年度であり、はじめは操作に時間がかかっていたが、徐々に慣れて効率化につながる傾向が見られていた。保護者のアンケートでは、保育内容の共有が足りない点が見られたが、その後のクラス懇談では生活や遊びを大切にしていることを伝えることが出来ていた。新年度は日々の連絡帳やドキュメンテーションで伝える方法を課題として実践を話し合っていきたい。	

データ表		
内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.07
「3歳未満児保育」	32	3.66
「3歳以上児保育」	53	4.09
「教育保育の配慮事項」	16	4.06
「健康・安全」	29	4.31
「子育ての支援」	18	4.44
「職員の資質向上」	9	3.56
計	172	4.05

データグラフ		0.00	1.00	2.00	3.00	4.00	5.00
「乳児保育」	4.07						
「3歳未満児保育」	3.66						
「3歳以上児保育」	4.09						
「教育保育の配慮事項」	4.06						
「健康・安全」	4.31						
「子育ての支援」	4.44						
「職員の資質向上」	3.56						

関係者評価より

- ・お子さんたちが明るくにこやかに雰囲気の良いを感じました。
- ・素敵な空間で子どもたちが落ち着いていました。
- ・設備も年齢に応じて、細かい気づかい等感じました。
- ・先生方の明るい笑顔、対応が印象に残りました。